

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	「アジアの親密圏と公共圏」教材作成：アジア家族比較調査（CAFS）データベース構築
<b>代表者名</b>	
<b>事業概要 (600 字程度)</b>	<p>本事業は、Comparative Asian Family Survey（以下、CAFS）を用いてデータベースを構築し、本データベースを用いたアジアにおける家族の意識や行動をまとめ、教材本を作成することを目的としている。CAFS は、タイ（バンコク）、ベトナム（ハノイ）、マレーシア（クアラルンプール）、インド（デリー・チェンナイ・ロータック）、カタール（ドーハ）の 5 地域によって構成されている。</p> <p>本事業は①データのクリーニングとデータベースの作成、②データを用いた本の作成、以上の 2 フェーズに分割され、本年度はフェーズ 1 とフェーズ 2 の両方に渡って事業を展開した。具体的には、フェーズ 1 ではカタール・インドデータのクリーニング、データの統合、そしてデータを補正するためのウエイトの作成を行い、分析対象となるデータベースを構築した。フェーズ 2 では、構築したデータベースを用いた基礎的な分析を行い、本を作成するための準備をした。また、本事業は国際比較であるため、基礎的な分析結果については、国際会議を通じて意見を収集し、フェーズ 2 を完成させるための足がかりを得た。</p>
<b>成果の概要 (800 字程度)</b>	<p>本事業における各フェーズの成果について以下に示す。</p> <p>フェーズ 1：CAFS データに基づく教材本を作成するため、本年度はカタールデータとインドデータのデータクリーニングを行った。具体的には、回答者内の論理的矛盾について検討を行い、データを確定した。次に 5 地域のデータを合併し、CAFS データを完成させた。最後に、各地域における年齢段階と性別の人口構成をもとにウエイトを作成し、ウエイト集計が出来る環境を整えた。このデータベースの構築自体が、フェーズ 1 における成果である。</p> <p>フェーズ 2：フェーズ 1 で構築したデータベースに基づき、CAFS データの基礎的な分析を行った。分析した項目は、①結婚、同棲、離婚に関する意識、②結婚歴、③子どものジェンダー選好、④ジェンダーイデオロギー、⑤家族主義と家父長制意識、⑥家族行動、⑦世代間援助の意識、⑧世代間援助の行動など多岐にわたる。それぞれの従属変数は度数分布表だけでなく、性・年齢段階・学歴の 3 つの独立変数によって平均値を算出し、それぞれの意識や行動の地域間の差異だけでなく、地域内における意識や行動の差異についても明らかになった。本分析で明らかになった知見は Eun and Date によって報告され、それぞれの地域の研究者から有益なコメントをもらった。このコメントをもとに、教材本のドラフトを現在執筆中である。なお、本事業における本は 4 つのパートで構成され、Ⅰイントロダクション、Ⅱデータ集、Ⅲテーマに基づく多変量解析、Ⅳ結論となる予定である。平成 27 年度については、Ⅱデータ集について、ほとんどの図表の作成が終了し、文章についても 2 割程度のドラフトが作成済である。今後は、データ集の作成を引き続き進め、4 つのテーマについて多変量解析を行うことによって、教材本の作成を順次進めていく予定である。</p>